

## 北社協プライド

新年明けましておめでとうございます。

ここ数年の気候をみますと、11月半ばとクリスマス前後に厳しい寒さと大雪に見舞われたものの、年越しは一転、とても穏やかというパターンのようなようです。そんなわけで今年の正月も比較的ゆっくりできたのではないのでしょうか。ただ、各地でインフルエンザが猛威を奮っており、私達の病院・施設でも運営にかなりの影響が出ていますので、油断はできません。

さて、平成 31 年の年頭にあたり、4 つのことを申し上げたいと思います。

第一は、私達の北社協はあと 3 年で設立 101 年目を迎えるということです。遡ること 1922 年、当時の皇太子殿下から「北海道における福祉・医療過疎の軽減を図るよう」との御下命を受け、本格的な活動を開始してから一世紀が経とうとしています。本部では、次の一世紀の始まりを記念していくつかの事業を計画中ですが、もっとも重要なことは、世間に広く北社協の存在と実績を認めてもらうことと考えております。職員の皆様におかれましても、この機会に、100 年を積み重ねてきた組織の一員としての自覚とプライドを持っていただくよう、希望します。

2 つ目は、経営のお話です。

4 年前から繰り返し述べてきましたが、北社協は現在もほぼ銀行管理下といえる厳しい経営状態にあります。200 億円という巨額の負債と、社会福祉法人会計上の債務超過から、新たな借金は認められない立場にあります。つまり、現在の手持ち資金と事業損益の範囲内での運営を強いられているということです。

昨年度は、皆様の奮励努力により、法人全体の経常損益が久しぶりに改善しました。それ故に「中期経営計画 2020」の 2 年目にあたる今年度は、対外的信用に関わる、まさに正念場であると、昨年、年頭に申し上げたのですが、現時点では年度末に計画より 3 億円近い下振れが見込まれております。残念ながら金融機関からは「わずか一年で逆戻りか、やっぱり駄目だね」と評価されることとなります。

したがって、昨年、年頭に掲げた 3 つの目標

- 1 人財育成
- 2 病院会計の単年度連結黒字化
- 3 多言語対応の準備

のうち 2 は、到底達成できそうにありません。

ただ、あと3ヶ月（四半期）残っています。各施設の幹部はもとより、職員の皆様におかれましても、この下振れをできるだけ少なくするよう、一層の奮起を強くお願いいたします。

3つ目は、各施設とくに病院には、地域における存在意義をあらためて確立されるよう、今一度、しっかりと分析し戦略を練っていただきたいと思います。7つの病院の立地条件や規模は違いますが、北社協のミッションは「生活圏の重要なインフラとして地域を支えること」ですので、地域住民に心から必要と認めてもらえるよう、皆で知恵を絞り、力を合わせることをお願いします。「北海道の地域医療は協会病院」と言われるよう頑張らしましょう。

第四ですが、私達の北社協を維持・発展させるためにもっとも重視していることは、人材の確保です。昨年も有資格職員の新規獲得は勿論、職員育成のための各種セミナーや研修を実施しました。これらにより個々のスキルアップに加え、施設間・多職種の交流が活発化し、組織全体のレベルアップと一体感が醸成されることを期待しております。今後も組織間の人的交流を積極的に行ってまいります。

以上、毎年同じことを申しておりますが、職員一人一人が、100年に亘り、北海道の福祉と地域医療を担ってきた組織の一員としての自覚とプライドを持ち、新たな百年を目指して気持ちを一つにされるよう、心からお願い申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

社会福祉法人 北海道社会事業協会  
理事長 吉田 秀明